

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人東泉会		
事業所名	グループホーム氷川(もみじ)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-1		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で四季を感じながらゆったりとした時間が過ごせる。また、苑内には、広い庭、菜園、いくつかのクラブ活動もあり趣味を活かした生活を送る事が出来る。ただ、残念な事に今は安全を重視しクラブ活動は、休止しています。コロナが、落ち着き次第再開します。いつもならば年間を通して母体施設や地域との交流、行事も盛んに行われています。医療面においても母体施設や地域の医療機関と密に連絡をとり連携出来る様に努めています。また、個人においても希望や要望に応じた対応、環境作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かで広い空や山々を見ているだけで気持ちが晴れればとして活力がわくような環境の中にある。管理者と各ユニットの主任は、職員を向上させる言葉かけや、職員の多様な意見提案を引き出す工夫をして、職員が主体的に生き生きと働けるよう努めている。「〇〇さんの思い出のコーナー」は個々の利用者の1か月の日常を写真で紹介し、「にこにこ掲示板」では行事を楽しく紹介しており、ネーミングにもこだわりが見られた。また、切り抜いたカレンダーの写真に、心に響く言葉を添えて趣のある作品にしたり、利用者の書道クラブの作品を額に入れ、さらに作品を引き立たせるなど、ホームの随所に職員の工夫が見られた。両ユニットそれぞれに、コロナ禍でも利用者の皆さんの心を潤し、明るく過ごして欲しいという職員の優しい思いが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とホームの理念を毎朝のミーティングで詠唱し理念を念頭に置いてケアの実践に繋げている。また、日々のケアでの問題点などを都度検討し毎朝のミーティング及び月1回のスタッフ会議で意見交換を行い確認している。	新人職員は入職時の新人教育で理念について学び理解を深めている。ミーティングやスタッフ会議で理念に沿っているかケアを振り返り、ケアの基本としている。利用者に折に触れ、「ありがとう」の言葉をかけ自信につなげたり、一人ひとりのペースに合わせた家庭的な生活に配慮するなど、日常の暮らしに理念の実践が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域との連携が取れているが、今年はコロナの為地域行事、施設行事、奉仕活動、地域の老人会へなどの地域との関わりが少なくなっている。	理念に「地域の中でなじみの方と関わりながら、ゆったりと、楽しく」と掲げている。地域行事に出かけたり、地域住民にホームの行事参加を呼び掛けたりと、年間を通じて積極的に地域との交流が行われている。敬老会は出身地区からの招待や記念品が届くなど、心温まる交流が続いている。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、地域との交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所が行う介護教室に参加したり、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの為、施設状況、活動、事故、ヒアリハット、その時々テーマなどを書類にまとめて委員の皆様の自宅に直接届ける。また、それについての意見、質問を電話で受付、地域の情報も提供して頂いて活動に取り込める様にしている。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止のため、ホームの利用者状況や活動と事故報告、職員研修や新型コロナウイルスの対策に関する情報などの資料を作成し、直接、委員の自宅に出向き届けている。	運営推進会議の書面での報告に対して、意見提案を言いやすくする工夫があると、さらに良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密になるのを避ける為、運営推進会議は書類配布と電話での意見聴取のみとなっているが、グループホームへの意見や行政に対する疑問点、行政情報などを直接電話で意見交換を行っている。	市職員が参加する八代地区グループホームブロック会議で質問や意見交換を行っている。疑問点など電話で質問しており、今回のコロナ禍での外部評価受審についても市役所に確認をとっている。ホームからの質問や相談に対して迅速で誠実な対応がっており、気軽に意見交換ができる関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に設置した身体拘束廃止委員会にて指針とマニュアルを定め勉強会と事例の検討を行っている。運営推進会議と設置した身体的拘束等適正化検討委員会は、指針とマニュアルを検討して頂き意見を聞いているが、現在はコロナの為書類の配布と電話での意見聴取のみである。また検討結果についてはスタッフにも周知している	職員は定期的な研修や事例検討を行い、拘束をしない意識の浸透を図っている。スピーチロックについて適切な言い換えを具体的に示したり、センサーマットを外すタイミングなど事例検討している。利用者と一緒に畑や鯉を見に行ったり外気に触れたり、お茶を飲んだり、会話をして気分転換を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で設置した身体拘束廃止委員会主催の勉強会を行っている。コロナの為、地域密着型サービスブロック会主催の研修会は現在中止中の為、スタッフ会議で勉強会を行っている。また、気になる点は、都度注意を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などは、積極的に参加するようにしているが活用出来る機会は、今のところはなく理解も難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改正時に説明行い同意を得ている。また、その都度疑問点なども尋ねる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が作られているがコロナの為、開催は延期している。また、面会も制限行っているため現在は、電話での近況報告・情報・意見交換・お手紙や毎月のアルバムを配布している。	年1回の家族会や面会、行事参加の際に意見要望を聞き取るようにしている。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、家族会開催の延期や面会の自粛を求めており、意見提案を聞く機会が減少している。そのため、こまめに電話で近況報告をし意見要望を聞き、利用者一人ひとりの1か月の暮らしぶりをアルバムにまとめ手紙を添えて報告するなど、家族の安心につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で意見や提案を聞きスタッフ会議で検討している。また、必要に応じて毎朝のミーティングの場でも意見や提案を聞ける様に努めている。	スタッフ会議はユニットごとにテーマを決め開催している。全職員参加を基本としており、不参加者は事前に文書で意見提案を伝える、自由な意見交換を促すため主任は意見を控えるなどして、多様な意見を聞きとっている。管理者・主任は意見提案を積極的に受け入れ、全職員で前向きに取り組んでいる。職員の意見を反映し、バーベキュー会を利用者が食べやすいサンマ会に変更するなど、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れており個人で目標を立てて取り組んでいる。また、面談で意見交換を行い向上心を持って働ける職場環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体の勉強会・八代部会の勉強会・外部の勉強会にいつもは参加しているが現在は、コロナの為スタッフ会議での勉強会が主である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナの為八代部会の研修会・親睦会などは行われてないが12月に今後の八代ブロック会のあり方についての管理者会議が行われた。また、意見交換などは、ファクスや電話で行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の担当のケアマネ等からの情報を元に御家族様・や利用者様の要望を聞きながら利用者様の心身の状況や想いを酌める様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望や不安な思いを傾聴・意見し信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の担当ケアマネや御家族様からの情報を整理し必要とされる支援を見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	性格の把握に努め、人生の先輩としての立場を尊重しながらも一緒に喜怒哀楽を感じられる様にしている。利用者様の残存機能も残せて行ける様な生活を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期の病院受診は、御家族様に協力して頂いており、日用品届など御家族様に関わって頂ける様なきっかけ作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事(敬老会・文化祭)参加、地元物産館への買い物などで馴染みの関係が途切れないよう支援に努めているが、現在はコロナの為外出控えている。文化祭には、作品を出展した。	デイサービス利用者や地域住民など、気軽にホームに訪問している。地域行事に参加した際、友人・知人との再会に時を忘れて話し込む光景も見られる。地域行事に積極的に出かけ、また訪問しやすい雰囲気作りに努め、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。今年はコロナ禍のため面会や外出を自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションなどを通じてお互いが支え合う環境作りに努めている。共通の話題提供考え会話が弾む様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、御本人、御家族様の経過を見守りながら相談や支援が出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活会話の中でさり気なく要望や希望を聞き出せる様に心掛けている。職員側からの声掛け誘導でなく御本人の意向を尋ねる様にしている。	日常会話から、利用者の思いを把握するよう努めている。墓参りに行ってないという利用者は家族の協力で思いが実現し、近所の人にも面会ができた。また、直接意思表示できない利用者は、言葉の一端から思いを推察するなど、利用者の思いに添う支援に努め、喜びや安心につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を基に入所時に御本人や御家族様としっかりと話しをして、必要としている支援を見極める様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングやバイタルチェックまた、ケース記録などを記入する事でその日の状態や過ごし方を把握出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送り、スタッフ会議で意見やアイデアを話し合い、御本人からは日々の暮らしの中で聞き取りを行っている。また、御家族様へは、面会時や電話で意見を聞く様になっている。	計画作成担当者は日常の観察や記録、他職員の意見などから情報を収集し、3か月に1回モニタリングを実施している。個々の利用者のプラン見直しの時期について年間計画を立て、各ユニットごとに全職員でカンファレンスを実施し、6か月ごとにプランを見直している。利用者にとって今何が必要であるか、家族はどのような生活を希望しているかに視点をおいたプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやアイデアは、ケース記録や申し送りノートに記入し必要に応じてプランに取り入れられている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設でもあり、ホームとしても協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつもは、希望に応じて外出支援、買い物、お寺参りなど行っているが現在は、外出等など控えている。また、買い物等は、希望を聞きながら職員が行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人と御家族様の意向を確認し、かかりつけ医との安心出来る様な関係作りを努めている。また、緊急時にも相談出来る体制がある。	利用者・家族の希望で全利用者が法人嘱託医をかかりつけ医としている。定期受診と皮膚科・整形外科等の受診は家族の同行を基本とし、緊急時はホーム職員が同行している。かかりつけ医に随時、健康状態を報告し、夜間や休日でも直接かかりつけ医と連絡可能である。また病状によっては病院の紹介があり、適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つスタッフがシフトの中で勤務しており、対応出来る体制がある。利用者様の基本情報、薬剤情報についてはファイルして常時確認出来る様にしている。また、必要に応じて地域の医療機関とも気軽に相談出来る関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報を提供し、入院中も医療機関と連絡をとり退院に向けた状況を検討し、御家族様、医療機関と話し合い、退院後の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームとしての考え方を文章と言葉で説明し意向を踏まえながら、御家族様や医療機関と検討するように努めている。	入居時に重度化や終末期に関する指針を説明し、利用者・家族の意向を確認している。外部研修や法人の看取りに関する研修等への参加も行われている。重度化した際、家族の希望で入院となるケースもあり、看取りの事例は少ないように見られた。	看取りの取り組みに関して、職員の意思統一・医療機関等との連携・職員体制の整備・看取りの研修など重要な要件である。これら看取りの体制について、職員全員で再確認するのによいと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすい場所に貼りだし全職員が確認出来るようにしている。また、年1回併設施設と合同で救命処置講習を氷川の消防署より来ていただき行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を併設事業所にも協力してもらい行っている。また、緊急連絡網を作成し災害時には、当番制にて夜間の泊まり込みを取り決めている。	大雨の際の避難場所を系列の千丁の施設としており、バスで避難訓練を実施したところ、利用者の移乗などの準備に時間を要し、現実的ではないといった課題が発見されている。気象情報で災害が危惧される際は、理事長の指示で数名の男性職員がホームに待機し、利用者の安心と安全の確保に努めることとしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠ける様な声掛けや対応については、その都度注意している。また、一人一人に応じた声掛けや対応を行い人格を尊重出来る様に努めている。	利用者が失禁した際は「大丈夫ですよ」と優しく声を掛ける、トイレにナースコールを取り付け遠くから見守る、排泄用品をトイレに常備し迅速に交換するなど、利用者の不安や羞恥心に配慮し、誇りを損ねない対応やプライバシーの確保に努めている。呼称は苗字に「さん」をつける、挨拶をして入室するなど、個々の人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶や入浴などの流れに沿って希望を尋ねて決定出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて活動を提供出来るようにしている。また、趣味を活かせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝着られる服は、本人に選んで頂き、思い思いに気に入った服を着られているが、季節にそぐわない服や、おなじ服装が続く時は、声掛け行き必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部食を導入しているが献立を元に利用者様の好みや希望に応じてアレンジしている。準備、台拭き、下膳など出来る範囲でのお手伝いはお願いしている。	食事は外部食を導入している。朝食だけでも手作りの食事を提供したいという職員の意見を反映し、ホームで準備している。調理をする音やにおいに家庭的なあたたかさが感じられる。利用者の要望を聞き、職員と一緒にたこ焼きやぜんざいを作ったり、趣きを変えて庭でサンマ会や花見の食事会をするなど、食事を楽しむ工夫が見られた。	職員が一人でも同じ食事を摂り、量や食材の固さ・大きさ、味付けや彩り、季節感など確認し、利用者の声を代弁して率直な意見提案をすることで、さらに美味しい食事につながると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部食取り入れ計算された食事を提供している。食事量は、個別に記録を取り摂取量が少ない方は御家族様に相談行いふりかけやきな粉などを購入したり好きなものを買ってきていただいたりしている。水分は、時間毎以外にも希望に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣になっている。義歯の洗浄も必要に応じて支援し、最低でも週2回ポリデントで消毒行っている。また、本人の希望でポリデント毎日行う方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などで排泄パターンを把握しさり気なく声掛け誘導行っている。また、行動や言動でのサインを見逃さず失敗なくトイレで排泄出来るように努めている。	屋間はトイレでの排泄を基本としている。個々の利用者の状態にあった適切な排泄用品を用いて、声掛け誘導や見守りで排泄の自立支援に努めている。毎朝、全利用者を対象に、蒸しタオルで陰部清拭を行い臭気を防止するとともに、皮膚の清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表などで確認行い朝からと10時のお茶の時間にも牛乳を勧めている。また、体操や散歩などで適度な運動を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞きながら行っている。また、季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを提供し楽しんでもらえるように努めている。	毎日お風呂を準備し、利用者の健康状態・排泄の汚染状況・入浴間隔などを考慮し、週2～3回の入浴を基本としている。浴槽に入れない利用者は、足浴と湯船のお湯をかけよく温まるようにしている。個別対応で利用者もくつろぎ、気分よく歌を歌ったり、会話が弾むなど楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、適度に体を動かす事で夜は、ゆっくりと休める様に支援している。また、季節やその日の気温に応じて衣類や寝具の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を全職員が観覧出来る場所に整理、保管しており、状態の変化には十分注意している。薬の変更や追加時には、定期外受け取り確認表や申し送りノートを活用し把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物片付け、菜園活動など希望に応じた支援を行っている。また、併設施設で行われている行事などにも参加し喜びの持てる生活が送れるよう支援しているが、行事はコロナの為現在、中止している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつもならば、季節に応じたバスハイクや行事、名所見学を計画し行っている。また、御家族様の協力を得て職員も一緒に自宅訪問も行っているが、現在はコロナの為、中止している。	自宅訪問を希望する利用者は職員の同行で帰宅し、家族や親せきとゆっくりした時間を過ごし、家族との絆を深めている。また、計画を立て季節ごとのバスハイクを楽しんでいる。今年度はアジサイ見学などは実施できたが、多くの計画はコロナ禍のため中止している。数人で近隣をドライブする、庭に出て日光浴やお茶を楽しむなど外気に触れることに努め、気分転換を図る努力をしている。	コロナ禍のため面会や外出の自粛が続いており、更に室内外の過ごし方を工夫し、気分転換を図ることが利用者のストレスの解消につながると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に責任者が管理し希望や要望に応じて使えるように支援しているが、御本人や御家族様の意向を踏まえた対応は可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて対応している。また、手紙を希望される方は、職員が手伝いハガキを出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭には木々が植えられ、玄関、テーブル、洗面台には、花々を置き季節を感じて頂けるようにしている。また、状況に応じて換気、清掃を行い不快感なく過ごして頂けるように努めている。	「〇〇さんの思い出コーナー」は個々の利用者の月ごとの暮らしぶりを写真で紹介し、「にこにこ掲示板」ではコロナに負けるなど、行事を楽しく紹介している。また、カレンダーの可愛い犬の写真に心に響く言葉を添えて、趣のある作品にして掲示している。両ユニット共に、利用者にコロナ禍でも心を癒し元気に笑顔で過ごしてもらうための工夫が随所に見られ、職員の優しい思いが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き自由に使用出来るようにしている。また、苑庭にベンチを設置し、見守りの元で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた物や、好みの物を持ち込まれている方もおられる。また、御本人の作品や、御家族様の写真などを飾り居心地の良い部屋作りに努めている。	全居室に加湿器を置き、定期的な換気の実施など、快適な環境に努めている。両ユニット共に居室入り口や室内に、利用者の写真や作品にひと手間かけて掲示しており、個々の部屋が個性的で明るい雰囲気になっている。使い慣れた家具の持ち込み、ぬいぐるみや花を飾る、ベッド柵に箱を取り付けて化粧品を入れて取り易くするなど、その人らしい落ち着いた部屋となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をつけ、トイレ、お風呂場にも案内板を設置している。また、廊下やトイレには手すりを設置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会		
事業所名	グループホーム氷川(りんご)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-1		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で四季を感じながらゆったりとした時間が過ごせる。また、苑内には広い庭、菜園、いくつかのクラブ活動もあり趣味を活かした生活を送ることができる。ただ、残念な事に今は安全を重視しクラブ活動は中止しています。コロナが落ち着き次第、再開します。いつもならば年間を通して母体施設や地域との交流、行事も盛んにおこなわれています。医療面においても母体施設や地域の医療機関とも密に連絡を取り、連携できるように努めています。また、個人においても希望や要望に応じた対応、環境づくりにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで斉唱し理念を念頭に置いたケアの実践に繋がれるようにしている。また日々のケアでの問題点などを都度検討し月一回のスタッフ会議で確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域との連携が取れており、地域行事、施設行事、奉仕活動、地区の老人会への参加などで地域との関わりはできていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、去年からあまりできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅支援事業所が行う介護教室に参加したり、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設状況、活動報告、事故報告など行っており、それについての意見、質問を受けている。また施設側からの意見にも答えてもらっている。地域の情報も提供して頂き活動に取りこめるようにしている。(令和2年3月より書面での会議の開催となっているが、意見等あれば個別に		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は新型コロナウイルスの為、運営推進会議等参加の場は無いが書面の配布時など現在の状況や情報交換など定期的な連絡は行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議後に身体拘束適正化検討委員会を開催し、毎回身体拘束を行っていないかの検討会を開催している。その結果については全職員に周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会をはじめ勉強会なども定期的に行われている。また気になる事はその都度注意し改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などには積極的に参加するようにしているが活用できる機会は今のところはなく、理解もまだ難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改正時に説明し同意を得ている。またその都度疑問点なども尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が作られており、家族が参加できる行事などの時に意見を頂いている。また面会以外でも電話で近況報告なども行い、定期的に通信を家族に配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との全体会議や月一回のスタッフ会議などで意見や提案を聞き、スタッフ全員で検討している。また必要に応じて都度意見を聞けるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に合わせた勤務形態に努めている。研修会参加や各資格習得に向けての勤務調整も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月スタッフ会議時に勉強会を開催している。八代部会の勉強会、外部の勉強会などに参加後は、内容を共有できるように発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代部会の研修会、親睦会などに参加し困難事例の検討や質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のケアマネからの情報を元に、家族、利用者からの要望も聞きながら利用者の心身の状況や想いを酌めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安な思いを傾聴、意見し信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当だったケアマネや家族からの情報を整理し、必要とされる支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	性格の把握に努め、人生の先輩としての立場を尊重しながらも一緒に喜怒哀楽を共に感じれるように生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期のお薬届や病院受診、散髪来苑また年2回個人用のGH通信を各家庭に配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会、文化祭、小学校行事、老人会など、なるべく参加できるように努めている。また施設開催のグランドゴルフ大会やお寺参りなどでも地域の方達との交流の場を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性に合わせて席を配置し、お互いが支え合える環境作りに努めている。また孤立を防ぐためにも話題を全員で共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所でも、これまでの暮らしの様子や留意点についての情報を提供し、必要に応じた支援が出来ることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活スタイルや日常の会話、行動の中で、さりげなく希望や要望のヒントを聞きだせるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入所前の担当ケアマネ、利用されていた事業所などから情報を集め把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやバイタルチェック、またケース記録などを記入することで、その日の状態や過ごし方を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議などで意見や課題を話し合い、本人からは日々の暮らしの中で聞き取りを行っている。また家族へは面会時や電話などで意見を聞くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践などは個別記録に記入し、申し送りの時皆で共有、検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設でもあり、ホームとしても協力体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物やドライブ、個別に家族協力のもとお墓参りや帰省など可能な限り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の意向を確認し、かかりつけ医との安心できるような関係作りに努めている。日々の状態報告も行って、緊急時の対応についても定期的に家族の意向を確認している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持っている職員も常駐しており、状態の変化は密に連携を取っている。状態変化時にはすぐに対応できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報を提供し、退院時にも家族、医療機関と話し合い、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームとしての考え方を言葉と文章で説明し、定期的に家族の思いに寄り添い、意向を確認しながら医療機関と検討するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすい場所に貼りだし全職員が確認できるようにしている。主任、看護師にも連絡できる体制を取っており急変、事故発生に対しての備えをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を併設事業所にも協力してもらい行っている。また、緊急連絡網を作成し災害時には、当番制にて夜間の泊まり込みを取り決めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠けるような声かけ、対応についてはその都度注意している。また一人一人に応じた声かけや対応を行い人格を尊重できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の先取りした行動にならないよう、行動の前には説明を行い希望を尋ね、決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて活動を提供できるようにしている。また個別に散歩や買い物など外にでる機会を希望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服も出来るだけ本人に選んでもらうようにしている。男性の方には、髭剃りの声掛けや洋服選びなどの支援をしている。同じ服装が続く時は声かけ行い必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には希望を聞き、ラーメンや行事にちなんだメニューの提供を行っている。また調理会・おやつ作りも開催し、一緒に食事を作る事もあり、出来る範囲でのお手伝いは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部食を取り入れ、計算された食事を提供している。食事量は個別に記録を取り、水分は時間毎以外でも好みの飲み物など希望に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄は習慣になっている。個別でブラシの使い分けを行い義歯の洗浄も必要に応じて支援し、最低でも週二回洗浄液で消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などで排泄パターンを把握しさりげなく誘導している。可能な方は布パンツへの移行を行い、行動や言動でのサインを見逃さず失敗なくトイレで排泄できるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表などで確認し、運動や排泄時の腹部のマッサージを行い、それでも困難な方には下剤を用いて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望を聞き行っている。また季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを提供し楽しんでもらえるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度に体を動かすことで夜はゆっくり休めるように支援している。また季節やその日の気温に応じて衣類や寝具の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を全職員が観覧できる場所に整理、保管しており、状態の変化には十分注意している。薬の変更や追加時には申し送りノートを活用し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、食器洗い、菜園活動など希望に応じた支援を行っている。また併設施設で行われる行事などにも参加し楽しみの持てる生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、以前のようには外出できていないが、密にならない様少数で換気に気を付けできる範囲で外出している。また、個別に応じて家族協力のもと墓参りなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に責任者が管理し希望や用途に応じて使えるように支援している。使った内容も記録し家族にも使い道を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望する方がいない為、電話前には本人に確認し、希望に応じて対応している。また年2回グループホーム通信を家族へ発行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭には木々が植えられ、玄関、テーブル、洗面台には花々を置き季節を感じて頂けるようにしている。また状況に応じて換気、清掃を行い不快感なく過ごしていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には三人用のソファを設置本人様の意志を確認しそれぞれ好きな場所で過ごしてもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方が使い慣れた家具の持ち込みはなく、入所されてから本人様と相談され部屋作りされている。家族が来られた際に一緒に撮った写真や、行事に撮った写真を目に付く所に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を付け、トイレ、風呂場にも案内板を設置している。時計など目に付くものは目線に合わせた設置を行い、また廊下には手すりを設置している。		